事例No.	1733
公表年度	R4
団体の属性	一般市
団体名	神奈川県秦野市

事例区分	公営企業

タグ	・（公営企業）水道事業 ・組織改革 ・EBPM

事例種類	経営戦略

事例内容・タイトル

「はだの上下水道ビジョン」の策定等（経営戦略の改定）

出典

公営企業の持続可能な経営の確保に向けた先進・優良事例集

【神奈川県秦野市】「はだの上下水道ビジョン」の策定等（経営戦略の改定）

経営戦略 **水道事業・下水道事業**

神奈川県秦野市上下水道局経営総務課

取組の概要

持続可能な上下水道事業の実現に向け、事業経営のあるべき姿とともに具体的な事業計画を示す「はだの上下水道ビジョン」を策定した。

◆総事業費　委託料　34,952千円

◆背景

- 当市の上下水道事業は、施設の老朽化が進んでおり、更新需要が増大する一方、人口減少社会の到来や節水型社会の進行などに伴い料金（使用料）収入は減少傾向にあり、今後の経営環境は一層厳しさを増すことが予想された。
- ライフラインである上下水道事業を、将来にわたり安定的に継続していくためには、現在の運営のみならず、将来の施設更新なども含めた費用を的確に把握し、中・長期的な視点に立って必要な財源の確保が必要である。
- こうした課題の解決に向け、「はだの上下水道ビジョン」を策定することとした。

◆具体的内容

- 平成28年度以降、経営基盤の強化に資するために下水道事業の法適用（平成28年度）、上下水道の組織統合（平成28年度）、料金（使用料）改定（平成28～29年度）に取り組んできた。これらを踏まえ、ビジョン策定において、施設整備計画と財政計画を盛り込み、各年度における具体的な事業箇所、事業量及び経費回収率等の目標値と、料金（使用料）改定を含む今後の経営見通しを示すことにより、健全経営の持続を図る。

◆効果

- ビジョンの策定・公表により、上下水道事業を持続させることの重要性の周知につながり、庁内及び市民の関心を高めることができた。

取組のポイント

- 上下水道の歴史や県下において当市の水道料金が安く下水道使用料が高い理由など、秦野の上下水道の「へえ、そうなんだ」を伝え、事業の内容に理解を深めてもらう。
- 人口減少や施設の老朽化により、大変厳しい時代を迎える中で、これから先、市民の負担増加なくしての経営は成り立たないなど、不都合な真実でも正直に伝える。
- 負担増加を求めるからには、その根拠となるデータを明確にするなど、できるだけのエビデンスで伝える。

公営企業情報

- 行政区域内人口　159,985人（令和4年1月1日時点）
- 行政区域内面積　103.76km^2（令和4年1月1日時点）
- 給水人口　159,822人（令和3年度決算）
- 処理区域内人口　140,633 人（令和3年度決算）

ビジョン改定の基本姿勢

① 水道事業が目指す姿 ：安定的な経営を継続
下水道事業が目指す姿：自立した安定的な経営基盤の構築

↓

② 両事業ともに老朽化問題を先送りしない。
(将来の利用者に負担を押し付けない。)

↓

①、②の両立のために料金改定は不可欠。ただし、一度に大きな改定ではなく、定期的に小さく改定を行う。（前回改定時の議会との約束）

↓

料金改定のためには、上下水道事業に対する市民、議会の関心を深め、理解を得ることが必要不可欠

↓

料金改定の時期や根拠も示すビジョン（経営戦略）の内容は、わかりやすく、親しみやすく。市民の「へえ、そうなんだ」を引き出せる内容に。

取組のスケジュール

- 平成31年4月　検討を開始
- 令和元年5月～令和3年2月
  上下水道審議会(全10回(うち書面開催1回))
  パブリックコメント、局内打合等
- 令和3年3月　策定・公表

今後の展望

- 当初の想定を上回る人口減少や新東名高速道路建設工事に伴うSA整備の遅れなど、経営環境の変化に留意し、事業進捗の点検・検証に努め、健全経営の構築を図る。
- 料金（使用料）改定に当たっては、新型感染症などの状況に留意し取り組んでいく。